



北寄りの風が
吹き出すと、動
物達は敏感に季
節を察し、一斉
に冬支度を始め

ます。そして私達も又、ほこりをかぶつた
ストーブやコタツを押し入れの奥から出して
きます。

◎ ◎

檀信徒の皆さま、お元気でいらつしやい
ますか。

一年のたつのは、本当にあつという間で
す。ついこの間、新しい年を迎えたと思っ
ていましたのに、もうその年を送るのです。
「歳計して余りあり」という言葉があり
ます。一日一日では赤字だけれど、一年の
総決算では、黒字になっているという意味
であります。

人間は年をとつて、死を迎えます。これ

つて来ていることだと思えます。

御先祖様にもおそらく、苦しい時、辛い時
もあつたことだと思えますが、それを耐え
て家を守り通したことを思いますと、子孫
として感謝せざるをえないわけです。
人それぞれ思いは違いますが、喜びを聞
いてくれる場所の一ツにお寺を入れられた
若い御両親のお心に、私の心も暖かくなつ
たことでした。

人生の階段

階段を一段づつ上つていくと、同じ景色
でありながら、一階で見た景色と、二階、
三階、屋上で見た景色とでは、その受ける
感じがとても違うように、人生という階段
も順番に上つていくと、全てのものが輝い
てみえる十代の景色と、二十代のおそれを
知らぬ年代でみた景色、社会の波にもまれ
分別のついてくる三十代でみる景色とでは
その色合いが違つてみえる筈であります。

は人間だけでなく、生あるもの全ての有り
様です。

どんなに経済力があり、整形手術をしよう
と、若返り薬ができればようと、この事実を曲
げることが出来ません。

あるがままの命の姿を、ありがたく一ツ一
ツいただいで、「歳計して余りあり」とい
う生き方をしたいものです。

描かれない根に感謝

今年も七・五・三の時期、神社でお祓い
をうけたあと、きれいに着飾つた子供さん
を連れた何組かの若いお父さん、お母さん
がお墓参りに来られました。境内に咲いて
いた花が風で動いた時、御先祖様達がうな
づいているようで、とても嬉しく思いまし
た。

私達がこうして幸せに暮らせるのも、家
代々の御先祖様が目に見えない何らかの功
徳に値する行為を、していたことが回り回

四十代でみる景色、五十代でみる景色、六
十代、七十代でみる景色、全て本当の景色
であつても、心の変容につれ、違つて見え
るものであります。



自分が何才まで生きられ
るものやら、皆目わかりま
せんが、どんな世界が開け
ていくのが、どういう世界
がみえてくるのだろうか、近頃は年をと
るといふことも、また別の意味で楽しく思
えたりしています。

一口伝導板

「ハイ」私達は毎日いろいろな言葉を使つ
ていますが、素直に言えない、む
ずかしい言葉もあります。

ナナムギ ナマゴメ ナマタマゴ
ナナムギナマゴメナマタマゴ
これよりも もつとむずかしいのは

「ハイ」

—素直に言えないんだよ　ネ

「反省」

何の気なしに言った　ひとことが
人の心を　傷つけることもある

このことに気がつけば

反省もできようが—

この私には

気がつかないことが

たくさん　あるだろうな—

お寺から

○ザル菊鑑賞　—報告

今年は大台風の襲来が続き、塩害もひどく、育てる土地によってザル菊の開花に随分バラつきがあったようで、思った程の出来映えが発揮できず、お寺の展示会を遠

慮された方もおりましたが、休憩所は勿論お弁当や焼きイモなど、土日はお店も出たこともあり、なかなかの賑わいでした。

ザル菊会役員さんの親切、熱心な指導でどなたでも、気軽に育てられます。随時、ザル菊を育てる会員さんを募集しております。お心のおありの方は応募下さい。

○大般若会のおさそい

昨年の暮に御案内しましたが、本年は一月十四日が大般若会（毎年成人の日）にあたります。充実した一年を過ごす為の御祈祷会でもあります。

未だお札をお申し込みでない方は、お電話での受付もしています。

御一人でも多くの方に、御参拝、御焼香、御祈願いただくことをお勧め申し上げます。

